



# CHAPTER 4

## 仮想ファイバチャネルインターフェイスの設定

この章では、Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチで仮想 Fibre Channel (FC; ファイバチャネル) インターフェイスを設定する方法について説明します。



(注)

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチで仮想 FC インターフェイスを設定する前に、スイッチで FCoE をイネーブルにし、設定する必要があります。FCoE のイネーブル化と設定については、『*Cisco Fabric Manager Fabric Configuration Guide*』を参照してください。

この章の内容は、次のとおりです。

- 「仮想ファイバチャネルインターフェイスの概要」(P.4-1)
- 「注意事項と制限」(P.4-2)
- 「仮想ファイバチャネルインターフェイスの設定」(P.4-2)
- 「デフォルト設定」(P.4-15)

## 仮想ファイバチャネルインターフェイスの概要

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチは、Fibre Channel over Ethernet (FCoE) をサポートします。そのため、スイッチとサーバ間の同じ物理イーサネット接続で、ファイバチャネルとイーサネットトラフィックを伝送できます。

FCoE のファイバチャネル部分は、仮想ファイバチャネルインターフェイスとして設定されます。仮想 FC インターフェイスでは、論理ファイバチャネル機能 (インターフェイス モードなど) を設定できます。仮想 FC インターフェイスを使用するには、インターフェイスにバインドする必要があります。



(注)

仮想 FC インターフェイスは、管理ステートがダウンに設定された状態で作成されます。仮想 FC インターフェイスを実際に運用するには、明示的に管理ステートを設定する必要があります。

## 注意事項と制限

仮想 FC インターフェイスを設定するときは、次の注意事項と制限に注意してください。

- 各仮想 FC インターフェイスは、次のインターフェイスのいずれかにバインドできます。
  - イーサネット インターフェイス
  - イーサネット ポートチャネル
  - 仮想 FC インターフェイスによって識別される FCoE Node (ENode) またはリモートの Fibre Channel Forwarder (FCF) の Media Access Control (MAC; メディア アクセス制御) アドレス
  - Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender のイーサネット ホスト インターフェイス
- FCoE がサポートされるのは 10 ギガビット イーサネット インターフェイスだけです。
- FCoE は、プライベート VLAN 上ではサポートされません。

## 仮想ファイバチャネル インターフェイスの設定

ここでは、仮想 FC インターフェイスを設定する方法について説明します。内容は次のとおりです。

- 「[VLAN から VSAN へのマッピング](#)」 (P.4-5)
- 「[ファイバチャネル VSAN メンバシップの割り当て](#)」 (P.4-8)
- 「[仮想ファイバチャネル インターフェイスの作成](#)」 (P.4-9)
- 「[仮想ファイバチャネル インターフェイスの削除](#)」 (P.4-14)

Cisco NX-OS リリース 4.0(1a) 以降のリリースを実行する Cisco Nexus 5000 シリーズスイッチで仮想 FC インターフェイスを設定できます。仮想 FC インターフェイスは、物理イーサネット インターフェイス、イーサネット ポートチャネル、またはリモート MAC アドレスにバインドできます。

仮想 FC インターフェイスをバインドするイーサネット インターフェイスは、次のように設定します。

- イーサネット インターフェイスは、トランク ポートにする必要があります (**switchport mode trunk** コマンドを使用します)。
- 仮想ファイバチャネルの VSAN に対応する FCoE VLAN は、許可 VLAN リストに含まれる必要があります。
- FCoE VLAN は、トランク ポートのネイティブ VLAN として設定しないでください。
- イーサネット インターフェイスは PortFast として設定する必要があります (**spanning-tree port edge trunk** コマンドを使用します)。

以上の設定の注意事項に従うことで、将来的に T11 Fibre Channel Initialization Protocol (FIP) ベースの FCoE リリースへとスムーズにアップグレードできます。

ここでは、仮想 FC インターフェイスを設定する方法について説明します。内容は次のとおりです。

- 「[Fabric Manager を使用した仮想ファイバチャネル インターフェイスの設定](#)」 (P.4-3)
- 「[Device Manager を使用した仮想ファイバチャネル インターフェイスの設定](#)」 (P.4-4)

## Fabric Manager を使用した仮想ファイバチャネル インターフェイスの設定

Fabric Manager を使用して仮想 FC インターフェイスを設定する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** [Physical Attributes] ペインで、[Switches] > [Interfaces] の順に展開し、[VFC (FCoE)] を選択します。仮想 FC の [Information] ペインが表示されます (図 4-1 を参照)。

[Information] ペインの [General] タブには、各仮想 FC インターフェイスの説明、バインドタイプ、バインドインターフェイス、バインド MAC アドレス、FCF プライオリティ値、VSAN ポート、およびステータスが表示されます。

図 4-1 仮想 FC の [Information] ペイン

| Switch        | Interface | Description | Bind Type      | Bind Interface | Bind MACAddress   | FCF Priority | Port VSAN | Mode Admin | Mode Oper | Status Service | Status Admin | Status Oper | FailureCause | LastChange |
|---------------|-----------|-------------|----------------|----------------|-------------------|--------------|-----------|------------|-----------|----------------|--------------|-------------|--------------|------------|
| nms-eugene-03 | vfc1      |             | interfaceIndex | eth1/1         | 00:00:00:00:00:00 | 0            | 1F        | auto       | in        | down           | down         | adminDown   | n/a          |            |

- ステップ 2** [Information] ペインの仮想 FC のテーブルで、設定する仮想 FC インターフェイスの行をクリックし、次の手順を実行します。

- a. (任意) 選択した仮想 FC インターフェイスのバインドタイプを変更できます。その場合、[Bind Type] カラムをクリックします。ドロップダウンリストから [interfaceIndex] または [macAddress] を選択します。



**(注)** リリース 4.1(3) よりも前の Cisco NX-OS リリースを実行する Cisco Nexus 5000 シリーズスイッチでは、仮想 FC インターフェイスのバインドタイプ値を変更できません。このようなスイッチの場合、[Bind Type] カラムにはバインドタイプとして interfaceIndex と表示されます。

- b. (任意) 仮想 FC インターフェイスにバインドする物理イーサネット インターフェイスまたはイーサネット ポートチャネルを選択するには、[Bind Interface] カラムをダブルクリックします。Cisco NX-OS リリース 4.1(3) 以降のリリースを実行する Cisco Nexus 5000 シリーズスイッチでは、イーサネット ポートチャネルに仮想 FC インターフェイスをバインドできます。

[Bind Type] 値が macAddress の場合、このカラムは無効です。

- c. (任意) ENode またはリモート FCF の MAC アドレスを入力するには、[Bind MAC Address] カラムをダブルクリックします。

[Bind Type] 値が interfaceIndex の場合、このカラムは無効です。

- d. (任意) 仮想 FC インターフェイスの FCF プライオリティ値を入力するには、[FCF Priority] カラムをダブルクリックします。このフィールドに値を入力すると、FCoE の [Information] ペインで設定したデフォルトの FCF プライオリティ値よりも優先されます。FCoE の設定の詳細については、『Cisco Fabric Manager Fabric Configuration Guide』を参照してください。



(注) リリース 4.1(3) よりも前の Cisco NX-OS リリースを実行する Cisco Nexus 5000 シリーズスイッチでは、FCF プライオリティ値を変更できません。

- e. [Information] ペイン ツールバーの [Apply Changes] アイコンをクリックして設定を保存します。

**ステップ 3** [Information] ペイン ツールバーの [Create Row] アイコンをクリックして、仮想 FC インターフェイスを作成します。詳細については、「Fabric Manager を使用した仮想ファイバチャネル インターフェイスの作成」(P.4-12) を参照してください。

**ステップ 4** [Information] ペイン ツールバーの [Delete Row] アイコンをクリックして、仮想 FC インターフェイスを削除します。詳細については、「仮想ファイバチャネル インターフェイスの削除」(P.4-14) を参照してください。

## Device Manager を使用した仮想ファイバチャネル インターフェイスの設定

Device Manager を使用して仮想 FC インターフェイスを設定する手順は、次のとおりです。

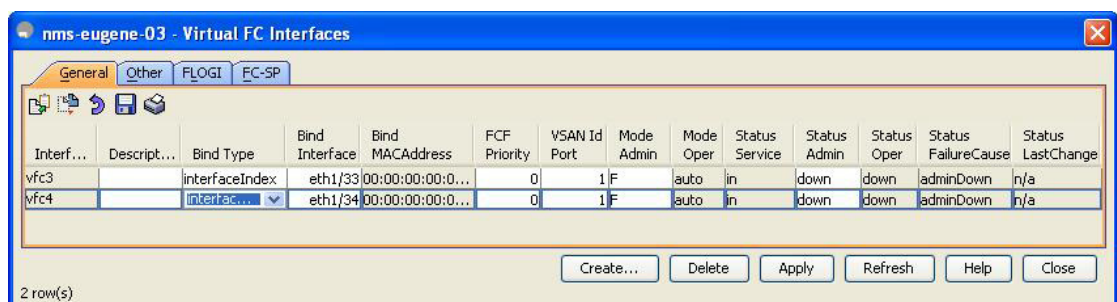
**ステップ 1** Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチから Device Manager を起動します。

**ステップ 2** [Interface] > [Virtual Interfaces] > [Fibre Channel] を選択します。

図 4-2 に示す [Virtual FC Interfaces] ダイアログボックスが表示されます。

[General] タブには、各仮想 FC インターフェイスの説明、バインドタイプ、バインドインターフェイス、バインド MAC アドレス、FCF プライオリティ値、VSAN ポート、およびステータスが表示されます。

図 4-2 [Virtual FC Interfaces] ダイアログボックス



**ステップ 3** 設定する仮想 FC インターフェイスをクリックします。仮想 FC インターフェイスの値を変更します。



- (注) [Bind Interface] カラムでは、仮想 FC インターフェイスを次のいずれかにバインドできます。
- 10 ギガビット イーサネットの速度で実行される物理イーサネット インターフェイス。
  - Cisco NX-OS リリース 4.1(3) 以降を実行する Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチのイーサネット ポートチャネル。イーサネット ポートチャネルには、10 ギガビット イーサネット で実行される 1 つのインターフェイスだけが必要です。
  - Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender 上のイーサネット ホスト インターフェイス。

詳細については、「[Fabric Manager を使用した仮想ファイバチャネル インターフェイスの設定](#) (P.4-3) を参照してください。

**ステップ 4** [Apply] をクリックして、設定を保存します

**ステップ 5** [Create] をクリックして、仮想 FC インターフェイスを作成します。詳細については、「[Device Manager を使用した仮想ファイバチャネル インターフェイスの作成](#)」(P.4-13) を参照してください。

**ステップ 6** [Delete] をクリックして、仮想 FC インターフェイスを削除します。詳細については、「[仮想ファイバチャネル インターフェイスの削除](#)」(P.4-14) を参照してください。

## VLAN から VSAN へのマッピング

VLAN-VSAN マッピングとは、特定 VSAN のファイバチャネルトラフィックを転送するために使用する VLAN を表します。各仮想 FC インターフェイスは、ただ 1 つの VSAN に対応付けられます。仮想 FC インターフェイスが対応付けられた VSAN は、専用の FCoE 対応 VLAN にマッピングする必要があります。FCoE は、プライベート VLAN 上ではサポートされません。

ここでは、VLAN から VSAN にマッピングする方法について説明します。内容は次のとおりです。

- 「[Fabric Manager を使用した VLAN から VSAN へのマッピング](#)」(P.4-5)
- 「[Device Manager を使用した VLAN から VSAN へのマッピング](#)」(P.4-7)

## Fabric Manager を使用した VLAN から VSAN へのマッピング

Fabric Manager を使用して、VSAN とそれに対応付けられた VLAN のマッピングを作成する手順は、次のとおりです。

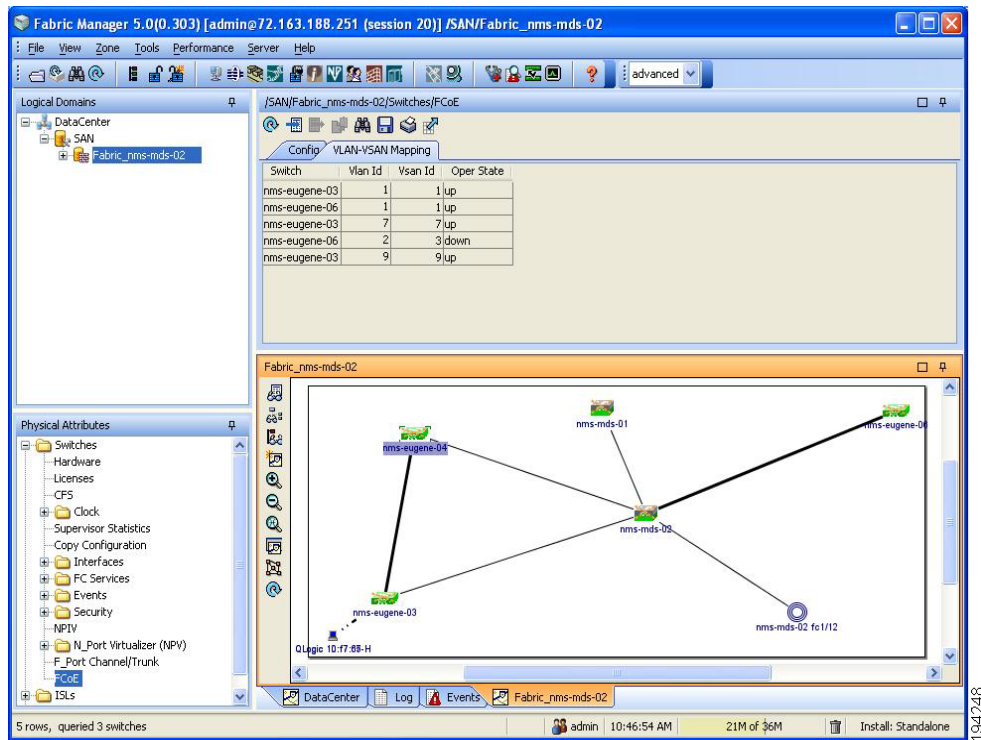
**ステップ 1** [Physical Attributes] ペインで、[Switches] > [FCoE] の順に選択します。

**ステップ 2** [Information] ペインで [VLAN-VSAN Mapping] タブをクリックします。

VLAN-VSAN マッピングの [Information] ペインが表示されます (図 4-3 を参照)。

[VLAN-VSAN Mapping] タブには、既存の VLAN-VSAN マッピングと、VLAN-VSAN 関連付けの動作ステータスが表示されます。既存の VLAN-VSAN マッピングは変更できません。

図 4-3 VLAN-VSAN マッピングの [Information] ペイン



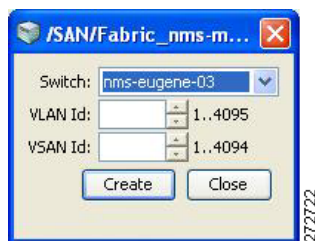
**ステップ 3** [Information] ペイン ツールバーの [Create Row] アイコンをクリックして、新しいマッピングを作成します。



(注) VLAN を VSAN にマッピングするには、ファブリックに Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチが必要です。

図 4-4 に示す [Create] ダイアログボックスが表示されます。

図 4-4 VLAN-VSAN マッピングの作成



**ステップ 4** [Switch] ドロップダウン リストで Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチを選択します。

**ステップ 5** [VLAN Id] フィールドおよび [VSAN Id] フィールドに、マッピングする VLAN ID と VSAN ID を入力します。

**ステップ 6** [Create] をクリックして、マッピングを作成します。

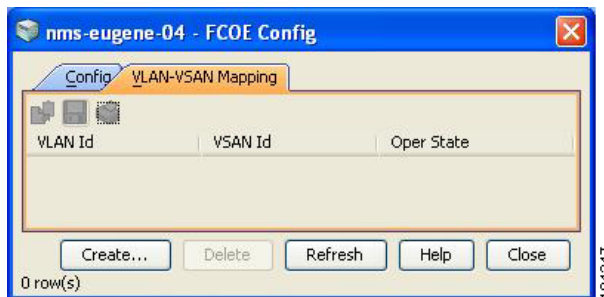


## Device Manager を使用した VLAN から VSAN へのマッピング

Device Manager を使用して、VSAN とそれに対応付けられた VLAN のマッピングを作成する手順は、次のとおりです。

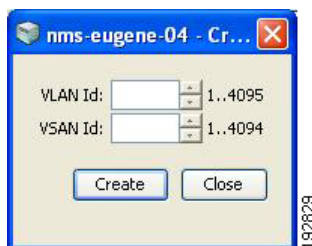
- ステップ 1** Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチから Device Manager を起動します。
- ステップ 2** [FCoE] > [Config] を選択します。  
 図 4-5 に示す [FCoE Config] ダイアログボックスが表示されます。

図 4-5 [FCoE Config] ダイアログボックス



- ステップ 3** [VLAN-VSAN Mapping] タブをクリックします。  
 [VLAN-VSAN Mapping] タブには、既存の VLAN-VSAN マッピングと、VLAN-VSAN 関連付けの動作ステータスが表示されます。既存の VLAN-VSAN マッピングは変更できません。
- ステップ 4** [Create] をクリックして、新しいマッピングを作成します。  
 図 4-6 に示す [Create VLAN-VSAN Mapping] ダイアログボックスが表示されます。

図 4-6 VLAN-VSAN マッピングの作成



- ステップ 5** [VLAN Id] フィールドおよび [VSAN Id] フィールドに、マッピングする VLAN ID と VSAN ID を入力します。
- ステップ 6** [Create] をクリックして、マッピングを作成します。

## ファイバチャネル VSAN メンバシップの割り当て

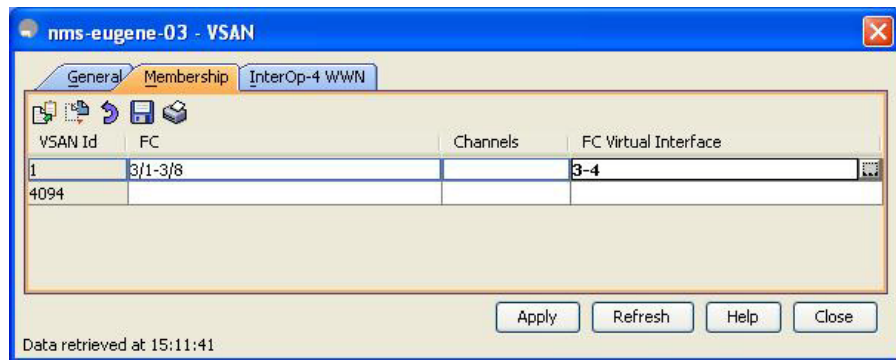
Device Manager を使用して仮想 FC インターフェイスを VSAN ポートに関連付ける手順は、次のとおりです。

**ステップ 1** Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチから Device Manager を起動します。

**ステップ 2** [FC] > [VSANs] を選択します。

図 4-7 に示す [VSAN] ダイアログボックスが表示されます。

図 4-7 [VSAN] ダイアログボックス



**ステップ 3** [Membership] タブをクリックします。このタブには、VSAN ポートに関連付けられた仮想 FC インターフェイスが表示されます。

**ステップ 4** テーブルの各 VSAN ポートについて、次の VSAN パラメータをダブルクリックし、値を選択して仮想 FC インターフェイスを VSAN に関連付けます。

- [FC] : VSAN のファイバチャネル ポート
- [Channels] : VSAN のイーサネット ポートチャンネル
- [FC Virtual Interface] : VSAN ポートに関連付けるファイバチャネル仮想インターフェイス

**ステップ 5** [Apply] をクリックして、変更内容を保存します。



## 仮想ファイバチャネル インターフェイスの作成

ここでは、仮想 FC インターフェイスを作成する方法について説明します。内容は次のとおりです。

- 「FCoE Configuration Wizard の使用方法」(P.4-9)
- 「Fabric Manager を使用した仮想ファイバチャネル インターフェイスの作成」(P.4-12)
- 「Device Manager を使用した仮想ファイバチャネル インターフェイスの作成」(P.4-13)

### FCoE Configuration Wizard の使用方法

FCoE Configuration Wizard を使用して仮想ファイバチャネル インターフェイスを作成する手順は、次のとおりです。

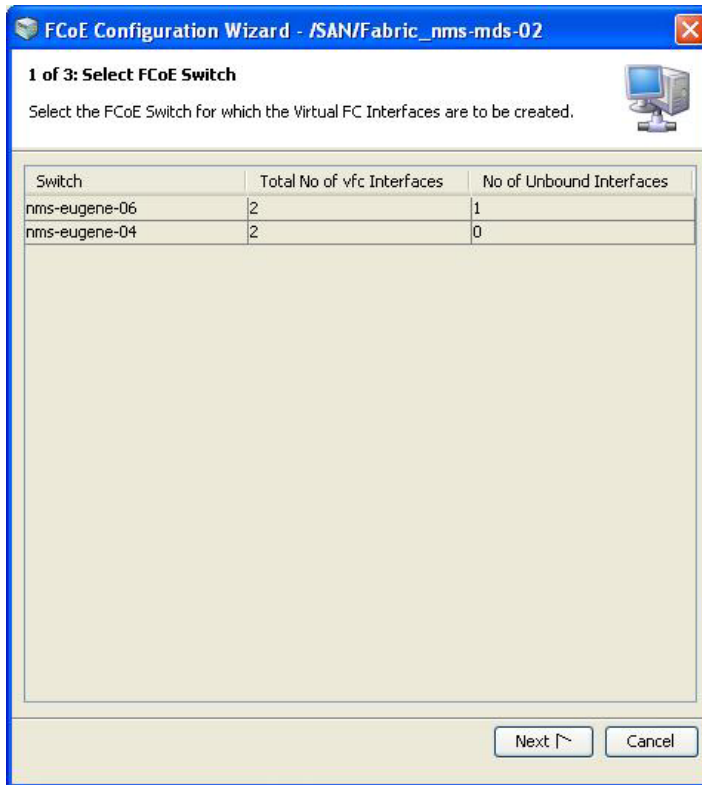
**ステップ 1** Fabric Manager ツールバーの [FCoE] をクリックするか、[Tools] > [FCoE] を選択します。



(注) [FCoE] ボタンと [Tools] > [FCoE] メニューは、ファブリックに Cisco Nexus 5000 シリーズスイッチが含まれる場合にだけ有効です。Cisco Nexus 5000 シリーズスイッチがファブリックの一部として検出されるのは、スイッチの FCoE 機能がイネーブルの場合だけです。

FCoE Configuration Wizard のステップ 1 が表示されます (図 4-8 を参照)。このウィザードには、ファブリック内で FCoE がイネーブルのスイッチがすべて表示されます。

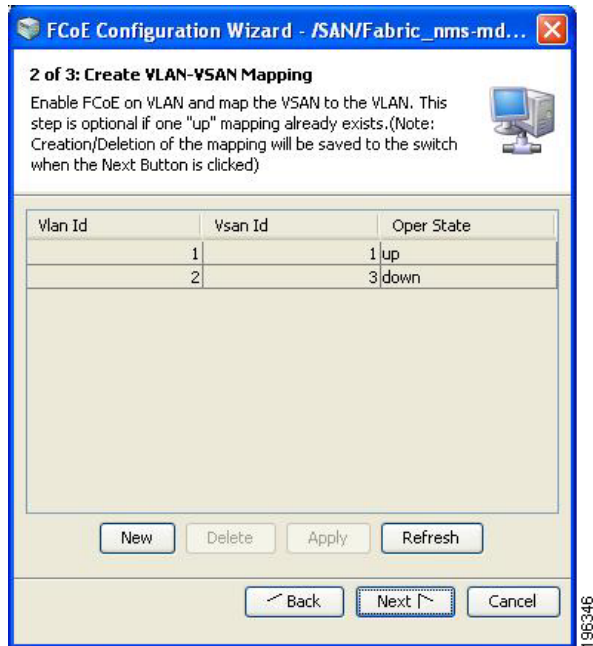
図 4-8 FCoE Configuration Wizard のステップ 1



**ステップ 2** スイッチを選択し、[Next] をクリックします。

FCoE Configuration Wizard のステップ 2 が表示されます (図 4-9 を参照)。このウィザードには、既存の VLAN-VSAN マッピングと、VLAN-VSAN 関連付けの動作ステートが表示されます。既存の VLAN-VSAN マッピングは変更できません。

図 4-9 FCoE Configuration Wizard のステップ 2



**ステップ 3** [Next] をクリックします。あるいは、任意で次のいずれかを実行できます。



(注) VLAN-VSAN マッピングを選択してから [Next] をクリックする場合、マッピングの動作ステートが「up」であることを確認します。「up」ではない場合、エラーメッセージが表示され、操作はウィザードのこのステップのままになります。

- (任意) インターフェイスの VLAN-VSAN マッピングを削除するには、既存の VLAN-VSAN マッピングを選択し、[Delete] をクリックし、[Next] をクリックしてスイッチの変更を保存します。
- (任意) インターフェイスの新しい VLAN-VSAN マッピングを作成する手順は、次のとおりです。
  - [New] をクリックします。  
新しい行が VLAN-VSAN マッピングのテーブルに追加されます。

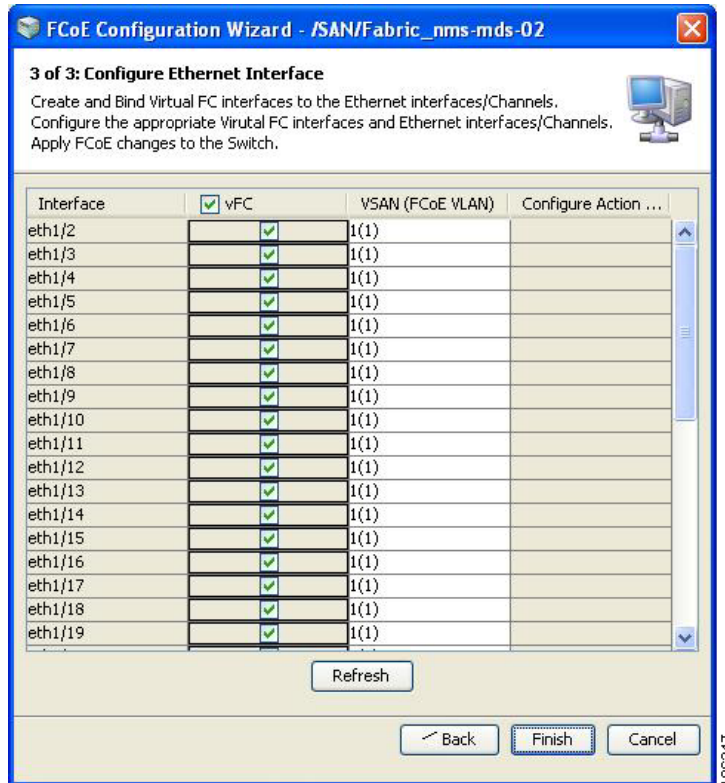


(注) VLAN-VSAN マッピングを作成するには、ファブリックに Cisco Nexus 5000 シリーズスイッチが必要です。

- [VLAN Id] カラムのドロップダウンリストから VLAN ID を選択するか、[VLAN Id] フィールドに VLAN ID を入力します。
- [VSAN Id] カラムのドロップダウンリストから VSAN ID を選択するか、[VSAN Id] フィールドに VSAN ID を入力します。
- [Next] をクリックして、スイッチの変更を保存します。

FCoE Configuration Wizard のステップ 3 が表示されます (図 4-10 を参照)。

図 4-10 FCoE Configuration Wizard のステップ 3



**ステップ 4** 仮想 FC インターフェイスを作成し、イーサネット インターフェイス、イーサネット ポートチャネル、または Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender のイーサネット ホスト インターフェイスにバインドします。



(注) イーサネット インターフェイスがイーサネット ポートチャネルの一部である場合、仮想 FC インターフェイスはイーサネット ポートチャネルにバインドされます。

次の注意事項では、仮想 FC インターフェイスをバインドできる有効なインターフェイスについて定義しています。

- イーサネット インターフェイスに仮想インターフェイスを関連付けることはできません。
- イーサネット ポートチャネル インターフェイスには、単一の 10 ギガビット イーサネット インターフェイスだけを含める必要があります。
- イーサネット インターフェイスは、Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender のアップリンク ポートに接続できません。
- イーサネット インターフェイスは 10 ギガビット イーサネット インターフェイスである必要があります。

**ステップ 5** [Finish] をクリックして変更を確定し、配信します。

## Fabric Manager を使用した仮想ファイバチャネル インターフェイスの作成

Fabric Manager を使用して仮想 FC インターフェイスを作成する手順は、次のとおりです。

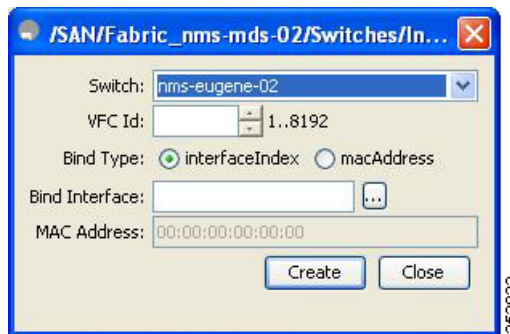
- ステップ 1** [Physical Attributes] ペインで、[Switches] > [Interfaces] の順に展開し、[VFC (FCoE)] を選択します。



**(注)** Cisco Fabric Manager 4.1(2) 以降のリリースでは、リリース 4.0(1a) よりも前の Cisco NX-OS リリースを実行する Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチでの仮想 FC インターフェイスの設定をサポートしません。リリース 4.0(1a) よりも前の Cisco NX-OS を実行する Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチで仮想 FC インターフェイスを設定しようとすると、Fabric Manager からエラーメッセージが発行されます。

- ステップ 2** [Information] ペイン ツールバーの [Create Row] アイコンをクリックします。  
 図 4-11 に示す [Create Virtual Interface] ダイアログボックスが表示されます。

図 4-11 [Create Virtual Interface] ダイアログボックス



- ステップ 3** [Switch] ドロップダウン リストから、仮想 FC インターフェイスを作成するスイッチを選択します。  
 次の利用可能な仮想 FC インターフェイス ID が自動選択されます。任意で、[VFC Id] フィールドに、この ID の値 (1 ~ 8192 の整数値) を入力します。
- ステップ 4** (任意) 仮想 FC インターフェイスをイーサネット インターフェイスまたはイーサネット ポートチャンネルにバインドする手順は、次のとおりです。
- [interfaceIndex] オプションボタンが選択されていることを確認します。[interfaceIndex] オプションボタンはデフォルトで選択されています。
  - [Bind Interface] フィールドの横にあるボタンをクリックし、この仮想 FC インターフェイスにバインドする物理イーサネット インターフェイスまたはイーサネット ポートチャンネルの番号を選択します。任意で、[Bind Interface] フィールドにイーサネット インターフェイスまたはイーサネット ポートチャンネルの値を入力できます。
- ステップ 5** (任意) 仮想 FC インターフェイスを ENode またはリモート FCF の MAC アドレスにバインドする手順は、次のとおりです。
- [macAddress] オプションボタンをクリックします。
  - [MAC Address] フィールドに、仮想 FC インターフェイスによって識別される ENode またはリモート FCF の MAC アドレスを入力します。たとえば、00:15:60:0F:C1:D0 などです。
- ステップ 6** [Create] をクリックします。
- ステップ 7** (任意) 同じスイッチまたは別のスイッチに追加の仮想 FC インターフェイスを作成するには、ステップ 3 ~ ステップ 6 を繰り返します。

**ステップ 8** 完了したら、[Create Virtual Interface] ダイアログボックスの [Close] をクリックします。

仮想 FC の [Information] ペインには、スイッチの新規および既存の仮想 FC インターフェイスが表示されます。

## Device Manager を使用した仮想ファイバチャネル インターフェイスの作成

Device Manager を使用して仮想 FC インターフェイスを作成する手順は、次のとおりです。

**ステップ 1** Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチから Device Manager を起動します。

**ステップ 2** [Interface] > [Virtual Interfaces] > [Fibre Channel] を選択します。

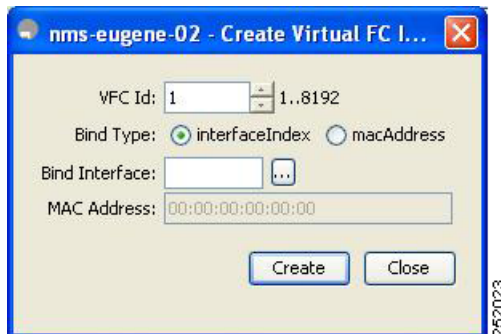
[Virtual FC Interfaces] ダイアログボックスが表示されます (図 4-2 を参照)。

[General] タブには、各仮想 FC インターフェイスの説明、バインドタイプ、バインドイーサネット インターフェイスまたはイーサネット ポートチャネル、バインド MAC アドレス、FCF プライオリティ値、VSAN ポート、およびステータスが表示されます。

**ステップ 3** [Create] をクリックします。

図 4-12 に示す [Create Virtual FC Interfaces General] ダイアログボックスが表示されます。

図 4-12 [Create Virtual FC Interfaces] ダイアログボックス



**ステップ 4** [VFC Id] フィールドに、仮想 FC インターフェイス ID (1 ~ 8192 の整数値) を入力します。[VFC Id] フィールドの値は 1 ずつ増分されます。

**ステップ 5** (任意) 仮想 FC インターフェイスをイーサネット インターフェイス、イーサネット ポートチャネル、または Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender のイーサネット ホスト インターフェイスにバインドする手順は、次のとおりです。

- a. [interfaceIndex] オプションボタンが選択されていることを確認します。[interfaceIndex] オプションボタンはデフォルトで選択されています。
- b. [Bind Interface] フィールドの横にあるボタンをクリックし、仮想 FC インターフェイスにバインドする物理イーサネット インターフェイス、イーサネット ポートチャネル、または Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender のイーサネット ホスト インターフェイスを選択します。任意で、[Bind Interface] フィールドにイーサネット インターフェイス、イーサネット ポートチャネル、またはイーサネット ホスト インターフェイスの値を入力できます。



**(注)** 1 ギガビット イーサネットの速度で実行されるイーサネット インターフェイス、または Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチと Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender を接続するポートに接続しているイーサネット インターフェイスに、仮想 FC インターフェイスはバインドできません。

- ステップ 6** (任意) 仮想 FC インターフェイスを ENode またはリモート FCF の MAC アドレスにバインドする手順は、次のとおりです。
- a. [macAddress] オプションボタンをクリックします。
  - b. [MAC Address] フィールドに、仮想 FC インターフェイスによって識別される ENode またはリモート FCF の MAC アドレスを入力します。たとえば、00:15:60:0F:C1:D0 などです。
- ステップ 7** [Create] をクリックします。  
[Virtual FC Interfaces] ダイアログボックスに仮想 FC インターフェイスが表示されます。
- ステップ 8** (任意) 追加の仮想 FC インターフェイスを作成するには、ステップ 4 ～ステップ 7 を繰り返します。
- ステップ 9** 完了したら、[Create Virtual FC Interfaces General] ダイアログボックスの [Close] をクリックします。  
[Virtual FC Interfaces] ダイアログボックスには、スイッチの新規および既存の仮想 FC インターフェイスが表示されます。
- 

## 仮想ファイバチャネル インターフェイスの削除

Fabric Manager または Device Manager を使用して、仮想 FC インターフェイスを削除できます。仮想 FC インターフェイスを削除する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** 次のいずれかを実行します。
- Fabric Manager の [Physical Attributes] ペインで、[Switches] > [Interfaces] の順に展開し、[VFC (FCoE)] を選択します。  
[Information] ペインに [Virtual Fibre Channel] テーブルが表示されます。
  - Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチから Device Manager を起動し、[Interface] > [Virtual Interfaces] > [Fibre Channel] を選択します。  
[Virtual FC Interfaces] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 2** 削除する仮想 FC インターフェイスを選択します。
- ステップ 3** 次のいずれかを実行します。
- Fabric Manager の [Information] ペイン ツールバーで、[Delete Row] アイコンをクリックします。
  - Device Manager の [Virtual FC Interfaces] ダイアログボックスで、[Delete] をクリックします。
- 確認のダイアログボックスが表示されたら、仮想 FC インターフェイスの削除を確定します。
-

## デフォルト設定

表 4-1 に、すべての仮想 FC インターフェイスのデフォルト設定を示します。

表 4-1 仮想ファイバチャネル インターフェイスのデフォルト パラメータ

| パラメータ          | デフォルト |
|----------------|-------|
| VSAN ID Port   | 1     |
| Mode Admin     | False |
| Mode Oper      | Auto  |
| Status Service | In    |
| Status Admin   | Down  |



